

GKM月報 2026年-1月号

(横須賀の現在・過去・未来を考える会)

通巻：第1号



GKMより新年のご挨拶

横須賀の現在・過去・未来を考える会 (GKM)

代表幹事 毛利邦彦 (毛利塾塾長)

2026年を迎え新春のお慶びを申し上げます。昨年GKMの総会を開催してGKMの活動の目的である「横須賀の魅力を発信する」ために月1回の機関誌を発行することになりました。また会を活発にするために2名の顧問と1名の幹事が就任しました。東洋大学名誉教授 棚沢直子氏、と元横須賀市自然・人文博物館学芸員 安池尋幸氏、また幹事として三笠ボランティア 加藤元章氏です。今年は会員の増強と名簿の管理の徹底などを強化して、会の活動を「見みえる化」し会員の増強を図ります。とくに本会の機関誌を月一で発行いたします。そのほか本年度の事業は次の事を予定しております。

◎いきいき学習塾での講演 (毛利代表幹事 1月24日@サポートセンター) ◎三浦半島の文化を考える会での講演 (毛利代表幹事 3月14日@・ヴェルク横須賀 13:30分開始) ◎ノタロンフェアフリマ出店 (大橋幹事 2月14日@サポートセンター) などが決まっております。また海軍航空技術廠、横須賀製鉄所、サヴァチエ (フランス医療) など出版していきます。さらにGKMのLIDRE、サポセンでの「大人の自由研究」など多様な活動を強化して、会員の皆様とともにGKMから横須賀の魅力を発信していきたいと思ひます。皆様のご協力ご支援をお願いいたします。

2026年1月3日記

「横須賀製鉄所建設現場からレポート」①

今回から、幕末に出現した近代的造船所「横須賀製鉄所」が、どのように建設されたかをシリーズで紹介しします。ここでは実際の現場データから説明しましょう。イメージしにくい方は、1869年頃の姿を描いたフランス語の地図があるので(クリスチャン・ボラック編『横須賀写真— エミール・ド・モンゴルフィエ 関連資料』)、図書館等で見てください。

(第1回) ヴェルニーが横須賀へ来た最初の日

元治元年 11月3日(1864年 12月1日)までに、勘定奉行小栗上野介忠順と駐日フランス公使レオン・ロッシュ両者の間で、具体的に製鉄所を建設し、その責任者が必要だという案件が確認されました。ついで、同年 12月9日(1865年 1月6日)、幕府老中たちとロッシュが具体的交渉を行い、幕府は軍艦方6名を翌年正月下旬から3月上旬にかけて横須賀村へ派遣し、測量を開始させます。その時正月26日(西暦2月21日)ヴェルニーが、通訳(幕臣)塩田三郎を伴いやって来ました。28日午後には横浜へ帰ります。(軍艦方十川辰之助「測量日記」)ここで調査した結果、1865年2月25日付(元治2年正月30日)で、ヴェルニーがサインした仏文の製鉄所規則書が作成されました。この内容は、日本語版でも存在が確認されます。実に詳細な内容を持ち、幕府は元治2年2月には横須賀製鉄所の全容をよく理解していたのです。(つづく)

(元横須賀市自然・人文博物館学芸員 安池尋幸) (原文のまま)

GKMから一言

安池さんは横須賀市自然。人文博物館の元学芸員で、横須賀製鉄所関係の第一次資料を読破してまた博物館の研究報告にも成果を収めています。古文書・公文書など第一次資料解読の読解に精通している安池氏は横須賀製鉄所を「現場レポート」として、「小栗上野介の遣米使節団関係と横須賀製鉄所」を18回の連載を予定しています。

GKMの月報は会員以外にも無料で配布します。配布先を募集しておりますので、ご協力お願いいたします。



ノタロンフェア
2026にGKMは「フリマ」を出店します。来場ください
2月14日 10:00~15:00

スチームハンマーのT-シャツはLDRE 2階「柳屋」で販売しています。

風洞おじさんの独り言①

横須賀の発展は横須賀製鉄所から海軍工廠と起っている人が多いと思いますが、その延長線上に海軍航空技術廠（空技廠）が浦郷、夏島地域にありました。海軍のほとんどの航空機が開発された所です。海軍の研究・開発機関として、時代の要請により末期は特殊攻撃機「桜花」を開発・製造しました。空技廠が何をしていたかを今でも日本国民は分かっていません。空技廠の実態を事実（一次資料）に基づいて学び、次世代に語り継ぐ役割は横須賀市民の義務だと思います。技術は幸福な人生を歩むツールです。決して人を殺める道具として用いてはなりません。空技廠には当時最新の実験装置と技術者、パイロットなどを集めた「技能集団」を有し、最新の航空機の開発を行い、こうした研究成果は海軍の航空技術力を向上させて民間（三菱・中島など）に発注する総合・統括機関であります。この空技廠を講演会、展示、論文、などでGKMは各種団体と連携しながら歴史に埋没させない活動を行う予定です。空技廠とは何かを明らかに致します。

今回は空技廠の概略を紹介いたします。（永久、毛利）



夏島の巨大風洞（正面）



空技廠の風洞群



国産初のジェット機「橘花」



江沢暁彦作品展①

（開港の夜明け）

横須賀市自然・人文博物館
正面玄関に飾られている

「開港の夜明け」は横須賀
を象徴している。

スチームハンマーは造船所
のマザーマシン。富岡製糸
場の原動機のパーム・エン
ジン、クレーン、黒船など
日本の近代化発祥の地であ
ることを集約した力作であ
る。この作品は「国際モダ
ン芸術展（IMA）」で努力
賞を獲得した。



面白写真①

タイトル「意気地なし」
絵画のような写真。器やフ
ルーツを組み合わせると面白
い写真が出来る。（星野）



GKMのポスター（仮）

フランス人医師サヴァチエの生涯①

フランス人Paul Amédée Ludovic

Savatier（以下サヴァチエ）は横須賀
製鉄所の医官として1866年から
約10年間横須賀に家族とともに滞
在した。サヴァチエは寧波のフラン
ス病院に勤務し、ヴェルニーと造船
所建設時に知り合った。徳川幕府は
横浜のフランス人病院の医者を予定
していたが、ヴェルニーの強い要請
により横須賀製鉄所の駐在医官に就
任した。サヴァチエの生涯を医者
の視点で時系列でまとめた書はない。
また幕末のフランス医療の導入につ
いは研究は少ない。サヴァチエが
どのような生涯を過ごし、横須賀製
鉄所（造船所）に貢献したかを数回
に渡り紹介して顕彰したい。

（江沢、毛利）

GKM月報は毎月発行したいと思います。投
稿を歓迎いたします。掲載されない場合も
ありますが、歓迎します。提出先は毛利塾
にてお願いします。



会員紹介①

江沢暁彦 GKM顧問

横須賀市大滝町にて江沢医院
を開業、神奈川歯科大招聘講
師、フランス人医師サヴァチ
エ研究家 画家

毛利塾からのお知らせ

2月14日（第二土） 16:00

2月28日（第四土） 16:00

講座費 毎回1000円 @毛利塾（汐入町）

横須賀の魅力を発信する講座と意見交換

申し込みは mourijuku@jcom.zaq.ne.jp

会員募集中 年会費 1000円：寄付・賛助会員募集中